

全体を通して(特に良いと思われる点)	
利用者と一緒にホームの芝の庭を畑にされており、季節の野菜やブルーベリーが育っていた。そのような取り組みから利用者が外に出て楽しむことが増え、さらに、外出の機会も多くなっている。職員は、スロープも手作りされ車椅子の方も畑に出やすくなっている。また、テラスで畑を眺めながら食事なども楽しませている。ご家族から苗をいただいたり、畑のことでの会話やかかわりも増えてきており、関係性なども深まってきている。ホームのいろいろなところに利用者の生活のしやすさを考えた職員の工夫がうかがえ、利用者と相談しケアを行うことで個々が自信を持って暮らせるよう配慮されている。笑顔の多い生活から利用者との関係性などもうかがえた。今後、ホームの庭を活かし地域の方をお招きする機会作りなども考えておられ、さらなる地域との交流への取り組みが期待される。	
分野	特記事項(特に改善を要すると思われる点)
運営理念	今後、ホーム便りの発行を予定されているが、現在は、ホームの理念や役割が地域に理解されるような取り組みについて特になされていない。ホーム周辺に民家が少ないこともあり、広報啓発への取り組みにむつかしさもあるだろうが、職員でアイデアを出し合うなどさらに、独自の一步すすめた取り組みが期待される。
生活空間づくり	意思表示が少ない利用者の方についても、それぞれの馴染める物品を提供され活動意欲を高めていかれてほしい。ご家族の協力を得たり、ご本人の興味のあるものなどを探り提供できるような取り組みが期待される。
ケアサービス	介護計画については、ご家族などの来訪時に意見をうかがうようにされているが、十分な意見の引き出しに至っておらず、作成後の報告に留まってしまうようなケースがある。ご家族の声の大切さを説明し、可能な方にはカンファレンスへ参加いただくなど、ご家族とも相談しながら介護計画を作成できるよう取り組まれることが期待される。
運営体制	利用者の受け入れや運営方針については職員の意見を聞いておられるが、職員採用は法人本部で一括して行われている。少人数スタッフが一人丸となって、チームケアに取り組んでいくためにも、日々利用者に接する現場職員の声が反映される仕組み作りが求められる。ホームは、職員同士のチームワークがよく、職員で話し合うことも多いが、さらに、ホーム側でも職員の悩みやストレスを解消するような独自の方策を検討されてほしい。
その他	消防署の指導のもと避難訓練を実施したり、職員の連絡網の再確認もされている。また、避難場所についても職員全員で理解されておりいざという時の対応ができるよう体制作りがされている。今後も継続的な取り組みが期待される。

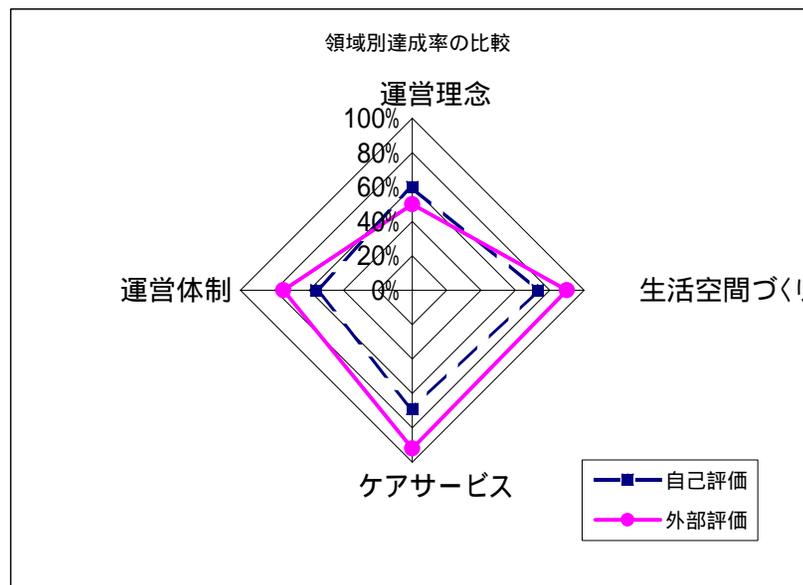
分野・領域	項目数	「できている」項目数
運営理念		
運営理念	4項目	2
生活空間づくり		
家庭的な生活環境づくり	4項目	4
心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	5
ケアサービス		
ケアマネジメント	7項目	6
介護の基本の実行	8項目	8
日常生活行為の支援	10項目	10
生活支援	2項目	2
医療・健康支援	9項目	7
地域生活	1項目	1
家族との交流支援	1項目	1
運営体制		
内部の運営体制	11項目	8
情報・相談・苦情	2項目	2
ホームと家族との交流	3項目	2
ホームと地域との交流	4項目	3
その他		
火災・地震等の災害への対応	1項目	1

### 自己評価・外部評価の達成率の比較

分野・領域	自己評価結果	
	項目数	達成率
運営理念	5	60%
生活空間づくり	13	73%
ケアサービス	77	69%
運営体制	40	56%
合計	135	65%

分野・領域	外部評価結果	
	項目数	達成率
運営理念	4	50%
生活空間づくり	10	90%
ケアサービス	38	92%
運営体制	20	75%
合計	72	85%

自己評価作成日	平成18年4月26日
訪問調査日	平成18年5月16日
評価結果確定日	平成18年6月23日



#### レーダーチャート・表の見方

\*自己評価結果・自己評価作成は、各ユニット毎に行ないます。その結果、ホームで「できている」と回答した数を集計し一事業所での達成率として表しています。

\*外部評価結果・外部評価は、ユニットすべてを調査しますが、評価結果は、事業所単位で表しています。

\*自己評価・外部評価の達成率の比較・自己評価が外部評価の達成率に比べて低くなっている場合があります。これは事業者自ら提供しているサービスに対し「まだ十分でない」「もっと改善の余地があるのではないか」という質の向上に向けた取り組みの姿勢と捉えることができます。

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己					
	<b>運営理念</b> 1. 運営理念の明確化					
1	1 理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。				法人全体の理念は明確にされているが、ホーム独自の具体化した方針や目標が定まっておらず、職員間で共有するまでに至っていない。	理念とは、貴ホームが運営を実践していく上で、よりどころとしている大切なもの、立ち戻る基本的な考え方であり、今後も利用者の実状に合わせて生きた方針や目標として理念を具体化し、常に職員に語り、牽引していくことが期待される。
2	3 運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、利用者及びその家族や代理人等(以下「家族等」という。)に分かりやすく説明している。				法人全体の理念は、入居時に契約書に明記されており、利用者やご家族にも十分説明している。	
3	4 権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、利用者及びその家族等に説明し同意を得ている。				利用者の権利・義務は、重要事項説明書に明示されており、利用者やご家族の同意が得られている。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5 運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)				今後、ホーム便りの発行を予定されているが、現在は、ホームの理念や役割が地域に理解されるような取り組みについて特になされていない。	ホーム周辺に民家が少ないこともあり、広報啓発への取り組みにむつかしさもあるだろうが、職員でアイデアを出し合うなどさらに、独自の一歩すすめた取り組みが期待される。
	<b>運営理念 4項目中 計</b>	2	2	0		
	<b>生活空間づくり</b> 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6 気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、利用者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)				利用者が育てられた草花や椅子を置くなどして、利用者が親しみを持てる雰囲気作りをされている。	
6	7 家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。				調度品など、季節を感じるものや手作りのものを用意され雰囲気作りへの工夫がうかがえた。	
7	8 共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、利用者が一人になったり気のあった利用者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。				利用者がその時々にあわせて、思い思いに過ごせるような居場所を確保されていた。	さらに、車椅子の方がゆっくりと過ごせるような場所作りについても、空間の制限はあるだろうがあきらめることなく工夫を重ねていかれてほしい。

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
8	9 利用者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり  居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。				居室は、ベッドやタンスがホームで用意されている。利用者の趣味の物が飾られていたり、ご自身が落ち着き心とむものが持ち込まれていた。	さらに、病院からの入居となるような方もその人らしい居室のしつらえとなるようホーム側でも工夫していかれてほしい。
<b>家庭的な生活環境づくり 4項目中 計</b>		4	0	0		
<b>2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり</b>						
9	11 身体機能の低下を補う配慮  利用者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)				車椅子の方は、スロープを利用して外に出られている。ホームの要所には手すりが付いており、ご自身の力で、自操したり動けるよう工夫されている。	さらに、この機会に、利用者の使いやすさという点からホーム内を点検されてみてはどうだろうか。利用者の機能が低下してもできるだけ自立して生活を送るためにも職員で工夫を重ねていかれてほしい。
10	13 場所間違い等の防止策  職員は、利用者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)				車椅子の利用者が多く、目線の位置に合わせて、それぞれの好みの花や飾りがつけられていた。	
11	14 音の大きさや光の強さに対する配慮  利用者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)				利用者の中には、耳の聞こえにくい方も多く、テレビ・音楽の音を少なくして、静かな環境の中での会話を大切にされるなど、個々が落ち着いて過ごせるよう配慮されている。	
12	15 換気・空調の配慮  気になる臭いや空気のだよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。				共用空間、居室とも適宜換気を行っており、臭いやだよみは感じられなかった。	
13	17 時の見当識への配慮  見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。				手作りカレンダーや日めくり暦があり、手作りの台の高さを調節され、利用者の目線に文字の大きいものが、見やすい所に置かれていた。	
14	18 活動意欲を触発する物品の用意  利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)				利用者個々に適した物品を用意するよう努めておられるが、さらに、意思表出が少ない方についてもそれぞれの馴染める物品について提供できるよう取り組まれない。	ご家族の協力を得たり、ご本人の興味のあるものなどを探り提供できるような取り組みが期待される。そのような取り組みから個々の自信や活力などにつなげていかれてほしい。
<b>心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計</b>		5	1	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		<b>ケアサービス</b> 1. ケアマネジメント					
15	20	個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、利用者主体の目標を立て、利用者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。				アセスメントに基づき、個々の特徴を捉えた介護計画を作成している。	
16	21	介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。				ケース会議などで職員の気づきや意見を聞き取り、介護計画に反映されている。作成後は、ファイルされいつでも職員が内容を知ることができるようになっている。	
17	22	介護計画への利用者・家族等の意見の反映 介護計画を、利用者や家族等とも相談しながら作成している。				ご家族などの来訪時に意見をうかがうようにされているが、十分な意見の引き出しに至っておらず、作成後の報告に留まってしまうようなケースがある。	ご家族の声の大切さを説明し、可能な方にはカンファレンスへ参加いただくなど、ご家族とも相談しながら介護計画を作成できるよう取り組まれることが期待される。
18	23	介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時見直しを行っている。				定期及び状態変化の都度、見直しがなされ、観察・記録に基づいた見直しとなっている。	
19	24	個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、利用者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。				利用者一人ひとりの健康状態や日々の暮らしが具体的に見やすく記録されている。	
20	25	確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にし、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。				ミーティング時の申し送りと利用者に関するノートで情報伝達が行われている。	
21	26	チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。				月に一度、職員会議が開かれており、職員は、お互いの情報や気づきを出し合い課題の解決に努めておられる。	さらに、職員会議についてすべての職員が集まりやすいような日や時間帯などについても検討してみてはどうだろうか。さらにチームワークを育てるといふ点からも職員が集まるような機会を活かせるよう取り組まれたい。
<b>ケアマネジメント 7項目中 計</b>			6	1	0		

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27 利用者一人ひとりの尊重 職員は、常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(利用者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)				職員は、利用者個々の性格や特徴を把握し、話をよく聞くようにされている。ご本人の思いを否定せず、納得のいく対応を心がけておられた。	
23	28 職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気と接している。				職員は、ゆったりとした態度で対応されており、声かけも穏やかでやさしい雰囲気であった。	
24	30 利用者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 利用者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。				利用者一人ひとりの生活歴や趣味、嗜好を聞き取り、その人らしさを大切にして、日々の暮らしの中に活かされていた。台所には、利用者個々の嗜好品が書き出されていた。	
25	32 利用者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。				利用者のペースに合わせた配慮がなされ、職員も一緒に生活を楽しまれている様子がうかがえた。	
26	33 利用者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、利用者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)				職員は、利用者個々の自己決定を大切にされている。外食に行く時はメニュー表を借りてこられて、時間をかけ利用者を選んでいただく場面を作るなど、一人ひとりが決めたり希望を出したりする機会を積極的に作っておられる。	
27	35 一人のできることへの配慮 自立支援を図るために、利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)				一人ひとりのできること、できそうなことを見極めて、見守ったり、そっと手助けするなど本人の自信につながる支援がなされている。	
28	37 身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。				身体拘束は一切行われていなかった。	
29	38 鍵をかけない工夫 利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族等に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)				玄関はいつも施錠されておらず、自由な生活が保たれている。	
介護の基本の実行 8項目中 計		8	0	0		

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43 馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、利用者一人ひとりが使い慣れたものになっている。				買い物の際、ご本人が選んだ茶碗、箸、コップなどそれぞれ個別の好みの食器を使用している。	
31	44 利用者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。				利用者の体調、嚥下状態に合わせて一口大にしたり、とろみを付けるなど工夫されており、一人ひとりの希望なども採り入れるよう努めておられる。	
32	45 個別の栄養摂取状況の把握 利用者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。				全体の栄養バランスやカロリーはおおむね把握し、摂取量や水分量のチェック表も作成されている。月一回は法人の管理栄養士に献立チェックしていただきアドバイスをもらうようにされている。	
33	47 食事を楽しむことのできる支援 職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。				職員も一緒に食事をし、会話を交え楽しみながらさりげなくサポートをされていた。	
	2) 排泄					
34	48 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。				排泄のチェック表がきちんと記入されており、トイレ誘導がなされており、できるだけオムツを使用しないで済むように支援されている。	
35	50 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。				周囲の方にも気を配り言葉かけで誘導されていた。ご本人のプライドにも十分配慮がなされていた。	
	3) 入浴					
36	53 利用者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 利用者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)				一人ひとりの希望に合わせ、支援されている。デイの特殊浴を利用しておられる方もおられる。	
	4) 整容					
37	56 理美容院の利用支援 利用者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)				月一回訪問理容を利用したり、ご家族が毛染めをされている方などご本人の希望に合わせた対応がなされている。	

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
38	57 プライドを大切にした整容の支援  整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)				利用者は、着衣の汚れなく身だしなみがきちんとされており、職員の日々のサポートがうかがえた。	
	5) 睡眠・休息					
39	60 安眠の支援  利用者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない利用者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。				日中の活動を通して、おおむね生活のリズムが作られているが、どうしても眠れない人には医師と相談して眠剤を使用する場合もある。	
<b>日常生活行為の支援 10項目中 計</b>		10	0	0		
	(3)生活支援					
40	64 金銭管理の支援  利用者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、利用者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。				お金の自己管理がむづかしい方でも、買い物時にご自身で買いたいものを選び、支払ってもらうなど、力量に合わせた支援がなされている。	
	(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66 ホーム内の役割・楽しみごとの支援  ホーム内で利用者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)				洗濯たたみ、食器拭き、草引き、本人のできること、得意なことなどを無理なく行っていただけるよう支援されている。	
<b>生活支援 2項目中 計</b>		2	0	0		
	(5)医療機関の受診等の支援					
42	68 医療関係者への相談  心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)				母体医療機関、かかりつけ医に気軽に相談できるようになっている。緊急時の対応もスムーズに行える体制がある。	
43	73 早期退院に向けた医療機関との連携  入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。				利用者は、母体病院に入院する機会が多い。入院時にはお見舞いに行くなどされており、医療機関とも連絡を密に図る体制ができています。	
44	74 定期健康診断の支援  年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。				個々の状態に合わせて、定期的に健診を実施されている。	

項目番号	外部	自己	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
			(6)心身の機能回復に向けた支援					
45		76	身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。				家事やご自身の力で車椅子を操作されるなど、それぞれの状態に合わせて日常生活の中で身体機能の維持に取り組まれている。	
			(7)利用者同士の交流支援					
46		78	トラブルへの対応 職員は、利用者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。				トラブルが生じた際は、双方の話をよく聞き、職員が適切に対応されている。	
			(8)健康管理					
47		80	口腔内の清潔保持 利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)				歯磨きなどは、生活の中で習慣となっており、毎食後に利用者個々の実情にあわせて支援されている。	
48		83	服薬の支援 職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。				職員は、服薬内容を処方により確認し、把握されている。薬が変わった時には状態について慎重に確認されている。	
49		85	緊急時の手当 利用者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)				緊急時のマニュアルが作成されているが、実技を伴う具体的な研修の機会は少なく、いざという時に対応できるかということに不安に思われている職員もいる。	さらに、利用者やご家族の安心安全のためにも定期的かつ、継続的な実技を含めた研修に取り組んでいかれることが望まれる。
50		86	感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)				現在、母体病院の感染症マニュアルを設置しておられ、指導を受け対応されているが、ホームでも感染症に対しての予防策や対応策についての具体的な取り決めを作ってはどうだろうか。	さらに、感染症全般についての知識を深めるためにも勉強会を行ったり、さらに具体的な取り決めを作られるなど感染症の予防や対策について話し合われてみてはどうだろうか。
<b>医療・健康支援 9項目中 計</b>				7	2	0		
			<b>3. 利用者の地域での生活の支援</b>					
51		90	ホームに閉じこもらない生活の支援 利用者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)				車椅子の方も多いが、隣接のデイサービスのリフト付き車を借りることができ、外食、買い物ドライブなど外出を楽しむことができるよう積極的に取り組まれている。	
<b>地域生活 1項目中 計</b>				1	0	0		

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	4. 利用者と家族との交流支援					
52	94 家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)				最近、芝の庭を畑に作り変えたところ、ご家族が苗物を持ってきてくれたり、ブルーベリー苗を植えてくださるなどご家族の来訪も増えている。	
家族との交流支援 1項目中 計		1	0	0		
	<b>運営体制</b> 1. 事業の統合性					
53	96 責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。				管理者は、ケアサービスの質の向上にむけ熱意を持って取り組まれているが、さらに法人代表者との協働でホームの質の向上を目指されることが期待される。	さらに、それぞれの立場でホームの質の向上に向けて取り組まれていくことが期待される。
54	97 職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、利用者の受け入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。				利用者の受け入れや運営方針については職員の意見を聞いておられるが、職員採用は法人本部で一括して行われている。	少人数スタッフがー丸となって、チームケアに取り組んでいくためにも、日々利用者に接する現場職員の声が反映される仕組み作りが求められる。
55	101 成年後見制度等の活用推進 利用(予定)者やその家族による、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の活用を推進している(制度概要等の説明、申立手続に関する専門機関や相談窓口の紹介等)。また、専門機関等は認知症高齢者の特性やグループホームをよく知っており、利用者や家族等並びにホームを支えていく協力体制が確保されている。				利用者の中には制度を活用されている方もいる。職員全員が制度について勉強されており、協力体制が整っている。	
	2. 職員の確保・育成					
56	102 利用者の状態に応じた職員の確保 利用者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。				利用者の状態に合わせたローテーションが組まれている。	
57	104 継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。				段階に応じた研修が受けられており、研修後は内容を報告し職員で共有されている。	
58	106 ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)				ホームは、職員同士のチームワークがよく、職員で話し合うことも多いが、さらに、ホーム側でも職員の悩みやストレスを解消するような独自の方策を検討されてほしい。	さらに、法人を含めて話し合うなど職員の希望なども聞き取られ、ホーム側からもストレスの解消策を検討されてみてはどうだろうか。

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	<b>3. 入居時及び退居時の対応方針</b>					
59	108 利用者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、利用者・家族の希望等)				法人内の入居判定に基づいて、管理者もともに面会し、事前の説明も十分にされており、ご家族などの意向をうかがい、入居決定を検討されている。	
60	110 退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、利用者や家族等に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。				退去にあたっては、ご本人やご家族などと十分話し合い、納得のいく退居先へ移れるよう支援されている。	
	<b>4. 衛生・安全管理</b>					
61	113 ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)				台所・トイレ・浴室など衛生的に整えられている。	
62	115 注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。				薬や洗剤、包丁など注意の必要な物品の保管について配慮されている。	
63	117 事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後活かす意義づけ等)				事故報告書が整備されており、ミーティング時に話し合いを行なうなどサービス改善に向けて取り組まれている。また、ご家族への報告もされている。	
<b>内部の運営体制 11項目中 計</b>		8	3	0		
	<b>5. 情報の開示・提供</b>					
64	119 調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。				調査時は積極的に情報の提供が行なわれた。	
	<b>6. 相談・苦情への対応</b>					
65	120 相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、利用者及び家族等にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。				相談、苦情受付窓口を明確にされており、ご家族にも説明されている。玄関には意見書箱が設置されている。	
<b>情報・相談・苦情 2項目中 計</b>		2	0	0		

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	<b>7. ホームと家族との交流</b>					
66	123 家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。				ご家族の来訪時、状態や暮らしぶりを伝えておられるが、ご家族と意思の疎通がむづかしいような場合もあり、さらなる働きかけの工夫が求められる。	さらに、家族会などの機会を活かしたり、ご家族にホームの役割や意義などを繰り返し伝えるなど、意見や要望を出していただきやすいよう働きかけを工夫されることが期待される。
67	124 家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、利用者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。(「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)				ご家族の来訪時や電話で利用者の日常の暮らしぶりなどをお伝えしている。	さらに、今後ホーム便りの作成などを予定されており、ご家族の楽しみになるような便りの作成が期待される。
68	127 利用者の金銭管理 利用者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族等と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。				個別に金銭出納帳があり、ご家族と相談され決められている。毎月のホームの請求書とともに詳細を報告されている。	
<b>ホームと家族との交流 3項目中 計</b>		2	1	0		
	<b>8. ホームと地域との交流</b>					
69	128 市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。				行政との連絡を取り、認知症ケアの向上にむけて相談員を受け入れるなど協働されている。	
70	131 地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。				ホームの立地条件のこともあり、地域の人達が気軽に立ち寄ってくれたりすることが少ない。ホーム側からも地域に向けての働きかけは、あまりされてない。	地域との交流については、むづかしさもあるだろうが、今後、自治会や老人会との交流、ホームの行事への参加を呼びかけるなど、地域との交流に取り組まれてほしい。
71	133 周辺施設等の理解・協力への働きかけ 利用者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)				警察・消防など周辺施設への働きかけを行っている。	
72	134 ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)				地域の介護相談員やボランティアなどの見学の受け入れを行っている。	
<b>ホームと地域との交流 4項目中 計</b>		3	1	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		<b>その他</b>					
73	144	火災・地震等の災害への対応 利用者や施設の状況を考慮に入れ、夜間も念頭においた防災対策を講じている。(災害発生時の職員、家族、その他関係機関(母体法人等)との連絡体制の確保、防災応援協定など地域との連携体制の確保、これらの連絡・連携体制を踏まえた災害に対応するための手引書等の作成、避難・誘導等定期的な訓練の実施等)				消防署の指導のもと避難訓練を実施したり、職員の連絡網の再確認もされている。また、避難場所についても職員全員で理解されておりいざという時の対応ができるよう体制作りがされている。	
<b>火災・地震等の災害への対応 1項目中 計</b>			<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>		

\* (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。  
(2)「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。